

健康のひろば

— 39 —

地元の医師がアドバイス

一週間ほど前から明るい所や白い壁を見つめて視線を左右に動かした

とき目の前に虫のような浮遊物が飛んでいるように見えるようになった。

「飛蚊症」とは、このように目の前に黒いススや虫、糸くずなどの「浮遊物」が飛んで見え、目を動かしても一緒に移動してくるように見えます。暗い所よりも明るい所や白い壁、雪景色、青空などを見たときに目立ちやすくなります。

原因の多くは、目の硝子体（しょうした）という透明なゼリー状のものに生じた濁り（にごり）です。年をとってから

の飛蚊症は老化により「濁り」を生じてなることが多いのですが、比較的若い方でも起こることがあります。

ただし、中には年齢による「濁り」ではなく出血、網膜の穴や剥離（はくり）、眼の中の炎症などが原因となっている場合もあるため、一度、眼科にて眼底検査（当日、お車の運転などはできません）をする必要があります。

「お話からすると、右目に飛蚊症（ひぶんしょう）があるようです。」

「糸くず状」「タバコの煙状」など様々です。

「原因の多くは、目の硝子体（しょうした）という透明なゼリー状のものに生じた濁り（にごり）です。年をとってから

の飛蚊症は老化により「濁り」を生じてなることが多いのですが、比較的若い方でも起こることがあります。

ただし、中には年齢による「濁り」ではなく出血、網膜の穴や剥離（はくり）、眼の中の炎症などが原因となっている場合もあるため、一度、眼科にて眼底検査（当日、お車の運転などはできません）をする必要があります。

「以前からあり、あまり変わらなければ心配いらないことのほうが多いのですが、眼科を受診して出血が見つかりそこで初めて糖尿病などの病気が見つかる場合もあります。」

特に、急激に飛蚊症がひどくなるようすがあったり、目のかすみや部分的に見えない場所があったり、もの見える範囲が狭くなるようでしたら、病気の可能性が高くなりますのですぐに受診することをお勧めします。



（なよろ眼科院長・井上玲）

「この浮遊物は、人によって」「マ状」「虫状」「カエルの卵」

の必要がなく、「生

理的飛蚊症」と呼ばれます。残念ながら、薬や手術で治るわけではありませんが、慣れてくるとさほど気にならなくなってくることも多いようです。

ただし、中には年齢による「濁り」ではなく出血、網膜の穴や剥離（はくり）、眼の中の炎症などが原因となっている場合もあるため、一度、眼科にて眼底検査（当日、お車の運転などはできません）をする必要があります。

「以前からあり、あまり変わらなければ心配いらないことのほうが多いのですが、眼科を受診して出血が見つかりそこで初めて糖尿病などの病気が見つかる場合もあります。」

また、以前、眼科で「ただの飛蚊症なので大丈夫」と言われたことがある方もこのようなおかしな症状が出てくればもう一度眼底検査を受けることをお勧めします。

（無職・男性・六十七歳）

☆

「この浮遊物は、人によって」「マ状」「虫状」「カエルの卵」

の必要がなく、「生

理的飛蚊症」と呼ばれます。残念ながら、薬や手術で治るわけではありませんが、慣れてくるとさほど気にならなくなってくることも多いようです。

ただし、中には年齢による「濁り」ではなく出血、網膜の穴や剥離（はくり）、眼の中の炎症などが原因となっている場合もあるため、一度、眼科にて眼底検査（当日、お車の運転などはできません）をする必要があります。

また、以前、眼科で「ただの飛蚊症なので大丈夫」と言われたことがある方もこのようなおかしな症状が出てくればもう一度眼底検査を受けることをお勧めします。

目の前に黒いススや虫